

## V. 部会研究の成果と課題

### 1. 数学的な見方・考え方を働かせるための手立て

	「問い」を生む問題提示のしかけ	指導過程の工夫
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の問題をそのまま使っても、教師の発問（声かけ）の工夫やスモールステップで進めるなどの工夫で、十分達成できるのだと感じた。</li> <li>子どもが自ら「問い」を持ち、解決できるようにしかけることが、主体的な学びにつながっていくように感じた。</li> <li>算数、数学の良さ（簡潔・明瞭・一般化など）につながるしかけが大切だと感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元構成の見直し、編成、事前に身に付けておくべきこと（知識・技能）を踏まえての指導過程の工夫になる。</li> <li>本時の目標に向け、授業の流れ（発問・板書・考えさせる順序など）を意識する必要さを感じた。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>単に「面白そう」という興味を引くための「問い」ではなく、解決の筋道やその時間での目標に迫ることが大切。</li> <li>子どもの中に「何ができそう」「これはどうなんだろう」が見える場の設定が難しいと思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1時間の授業だけを切り取って評価することも大切だが、単元全体を通してどのように学ばせて、どんな力をつけさせてきたのかを議論し、どうだったのかを追究していく方が良いのではないか。</li> </ul>

### 2. 数学的な見方・考え方を共有させるための手立て

	「発想の源」を共有させるしかけ	数学的表現を用いた思考・交流
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>「どうして？」を説明する場面を、毎日少しずつでも積み重ねていくことで、既習を生かしたり、説明したりする力がつくと感じた。</li> <li>教師が問い返すことで、子どもたちは一層「どうして」を考えることができた。</li> <li>表現力を育てることにつながり、算数科だけでなく他教科でも有効である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉を引き出す工夫と日常的に活用することの大切さを確認できた。</li> <li>対話的という部分と、表現力を高めることできた。</li> <li>ICTを活用することで考え方を一瞬で全体と共有できるよさがあることがわかった。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の目標を達成するために、何を考えさせ、その方法は何が一番良いのかを考えることが大切。</li> <li>共有させることが目標になってはいけない。どうして共有させるのかを考える必要がある。</li> <li>算数が苦手な子は、既習事項がきちんと定着しておらず、「発想の源」を問う難しさを感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の問い返しが必要であり、そのために何に取り組んできたのかを示すべきだと思う。また、単元の中で、どの場面で重きを置いたのかも明らかにしていくと良いのではないか。</li> <li>数学的表現を用いた思考・交流は大事だが、改めて難しさを感じることもある。</li> </ul>

(文責 横山 拓也)